

名医シリーズ

信頼の主治医

明日の
医療を支える
信頼のドクター

2019年版



信頼の主治医
外科医・救急医として培ってきた豊富な経験と知識
 地域の人々の健康と安らぎを第一に考えた心の通った温かい医療

静岡県出身の菊池院長は福島県立医科大学を卒業後、浜松医科大学医学部附属病院ですべての

医療が日進月歩の発展を遂げる中、多様なメディアを通して最新の医療技術、診療情報を日々の診療活動に生かし、自らもブログなどを通して情報発信を積極的に行っている菊池院長のもとに、老若男女問わずさまざまな不調を抱えた患者が足繁く訪れる。

「これによって経済活動は停滞し、それに伴う税収の低下は社会保障費を著しく圧迫し、年金制度や健康保険制度が立ち行かなくなる」「2030年問題」が叫ばれている。とりわけ医療における地方の人材不足は深刻で、救急外来で受診が断られる、慢性的に入院病床が確保しにくい、医療を必要としている高齢者の居場所が無い：といった課題山積で、このままでは必要な医療サービスを受けられない医療難民、診療難民の拡大は避けられない。こうした中、神奈川県綾瀬市にあるショッピングモールの一角に位置する「きくち総合診療クリニック」の菊池大和院長は、平成29年4月の開業以来、「患者さんにとって安心して駆け込めるようなクリニックでありたい」との思いから、土日祝日診療を行い、地域の健康維持・増進に貢献している。

戦後間もなく生まれた団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者になる2025年に、要介護認定を受けると高齢者が急増する「2025年問題」が指摘されてきた。さらに国民の3人に1人が65歳以上の高齢者となる2030年には、少子化による総人口の減少とともに15〜64歳の生産年齢人口が減ることによって深刻な労働力不足をきたす。

小児から高齢の方まですべての疾患を総合的に診療し、バランスのとれた医療を提供する

土日祝日も診療し、風邪もケガも同時に診る地域の頼れるかかりつけ医



Yamato Kikuchi

幅 広い診療内容としっかりとした検査で、病の早期発見に努めることが重要です

きくち総合診療クリニック

院長 菊池 大和

きくち総合診療クリニック



土日祝診療を行うクリニックに地域からの信頼は厚い

医療の進歩は多くの恩恵を人々にもたらす一方、医療があまりにも専門分化しているため、一人の医師が患者を診る範囲が狭くなっている。

人間の身体は様々な臓器や組織が有機的に繋がって機能しているのだが、診療そのものが専門分化することによって、専門外となる臓器や関連する組織の異常を見逃ごしたり診断がおろそかになることも少なくない。

その結果、いくつもの疾患を抱える人はそれぞれ専門医療施設で治療を受けるという効率の悪い通院を強いられるしまう。

「当院にはどんな病気や症状の方でも来ていただいで大丈夫です。総合診療を行う医師はあらゆる病気や症状について深く広い知識を持っていますので、生活習慣病や認知症などの慢性期疾患、突然のケガや病気といった急性期疾患など、すべての病気や症状について総合的に診療します。必要であれば専門の病院やクリニックを紹介し

信頼の主治医 

病状を「幅広く診る」総合診療がクリニックの特徴

基幹病院との連携を密にして専門的な疾患にも対応

診療科を2年間で回るスーパーローテーションの研修を受けた。

その後、湘南東部総合病院外科科長、救急センター長などを歴任し、平成28年から座間総合病院総合診療科で勤務し、翌年4月神奈川県綾瀬市に「きくち総合診療クリニック」を開院した。開業の動機を次のように語る。

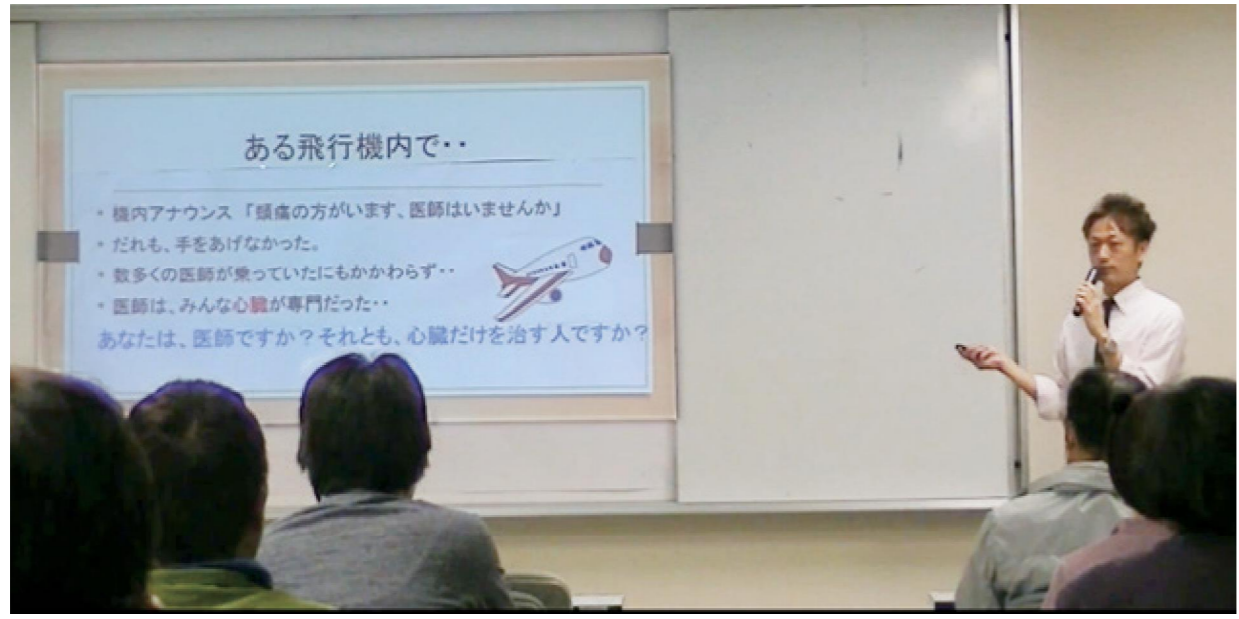
「いくつもの総合病院で手術や救急診療に携わってきましたが、重篤な症状になってから運ばれてくる患者さんが多いのです。もっと早く病気を見つけてあげることができれば、と思うようになりました。手術を行って病に苦しむ患者さんを助けることは大変やりがいのあることですが、幅広い診療内容としっかりとした検査で、病の早期発見に努めて患者さんを救うことの重要性を思い開業を決意しました」

地元である静岡ではなく、現在の地に開業したのはある思いからだ。

「もともと医療機関があまりない場所で患者さんを診ていきたいと思っていました。10年ほど勤務していた湘南東部総合病院から近い綾瀬市が医療過疎地ということを知り、ここで地域医療に貢献できればと思ったのです」

日曜・祝日の診療に加え、土曜日の夜間診療を行っているクリニックは他に類を見ない画期的なものだ。患者がクリニックに求めるのは病気を治してもらうことはもちろんだが、医師に診てもらったことで不安が解消し、心の安らぎと癒しを得るためでもある。開業以来、地域の人々の健康と安らぎを第一に考えた心の通った温かい医療は地域の評判を呼び、老若男女問わず人気のクリニックとして地域に定着していった。

きくち総合診療クリニック



市民講座での講演など、救急医療の重要性を広めている

て、普段の「生活の質」を高めることがますます重要となつていく。

「体調の変化に気づいていても仕事や日常生活にかまけて受診できず、そのまま放置していると大きな病気を引き起こしてしまいます。体調に異常を感じたら早いうちに受診してほしいと思います。このため当院では土曜日曜、祝日も診療し、平日も夜9時まで診療しています」と菊池院長。

レントゲンやCT、血液検査器など高度な医療設備を駆使して病気の早期発見に力を入れている菊池院長だが、救急病院で多くの外科手術の経験を積み重ねてきただけに、手術が必要かどうかの判断も早い。

日々八面六臂の活躍を続ける菊池院長は小学6年生の時に医師を志した。ドイツ人のアルベルト・シュバイツァーの伝記を読んだことがきっかけだという。

「生命への畏敬」の理念で知られるシュバイツァー博士は、音楽家でありながら貧しい人々のために30歳を過ぎて医師になり、アフリカの未開地で医療活動に従事した敬虔な神学者で哲学者でもある。

「外科を選んだのは、病気を自分の手で治せると思ってたからです。外科医としての経験を積んでいく中で、それ以上に手遅れで運ばれてくる患者さんを少しでも減ら

超高齢社会とともに病に罹った高齢者の「QOL（クオリティ・オブ・ライフ）＝生活の質」の確保が叫ばれて久しい。

これまではどちらかといえば、がんなどで重症化した人のQOLの確保が中心で、病気になつてからの視点で語られることが多かった。

しかしこれからは、病気に罹る前に定期的に健康診断を受けるなど日ごろの健康づくりに力を入れ

 **日常生活のQOL向上と健康管理で地域に貢献**
手遅れで運ばれてくる患者を少しでも減らしたいと総合診療医に

ますので、どこの科で診てもらえばいいのかわからないという方もぜひお越しく下さい」と呼びかける菊池院長は、総合診療クリニックならではのメリットを強調する。

生活習慣の変化と高齢化によって日本人の疾病構造は大きく様変わりしたといわれる。いまや多くの人にとって、がんや糖尿病、脂質異常症や高血圧性疾患は避けて通ることが難しい状況となつている。

加えて、高度医療による救命率が向上し、一命を取り留めたものの疾病の再発リスクや後遺症を抱える人も増えている。

超高齢社会の到来は複数の慢性疾患を併せ持つ患者を増やし続けているともいえる。それだけにこうした患者ニーズの多様化に対応して、包括的に診療するスキルをもつ総合診療クリニックの存在意義は大きい。

「幅広く診る」ことを基本的スタンスに日夜診療に力を尽している菊池院長の取り組みは、今後の日本医療のしかるべき未来像を示しているといえる。

したいと思うようになり、総合診療の医師になる道を選びました」
 少子高齢化が加速化する現在、このままの医療システム、医療体制が何の改善もなければ、国民皆保険制度の日本の医療は維持できなくなり、「お金の有る無しで患者の寿命が決まる」時代が来るとも限らない。

一人ひとりの患者の人生に寄り添い、命の最後の砦でありたいと願う菊池院長の取り組みは、経営優先の医療機関が多い中でひと際輝きを増している。



診療のモットーは「しっかり患者の話を「聴く」こと」
 「健康維持」「早期発見・早期治療」「救急対応」がテーマ

「当たり前前の話ですが、患者さんが目の前にいる時は、パソコンの電子カルテを見ないようにしています。体をしっかりと患者さんのほうに向け、お話をしっかりと『聴く』ことを心がけています。また、先入観を持った診療はしないよう気を付けています。幅広く色々な病気の可能性を考えて、当院でできる検査を行ってから診断をするというやり方ですね」と診療のモットーを語る菊池院長。

かつて地域の医療に携わる医師は、地域社会で大きな信頼を集め尊敬される存在だった。しかし現在は、地域社会や地元の人々との様々なリレーションシップが希薄となり、ビジネスライクな冷たい医療が散見され、温かい心の通った医療が無くなっていくように思われる。

救急搬送拒否で病院をたらい回しにあり、尊い命を落とすという痛ましい事件が時折報じられるが、菊池院長は「CTなどを完備している当院なら、頭部から腹部までの命に関わる病気がどうかを迅速に判断できます。症状が軽くても、怖い病気が隠れていることがありますから、軽症

の救急車の受け入れ態勢も整えています」と救急科専門医によるかかりつけ医ならではの魅力を語る。

また、菊池院長は診療で多忙を極める傍ら、市民講座や出張無料セミナーなど、「健康維持」、「早期発見治療」、「救急対応」の大切さを地域に広める活動を精力的に取り組んでいる。

こうした菊池院長の活動を支えているのが、きくち総合診療クリニックの優秀なスタッフたちだ。

総合診療・救急診療への熱い思い、それを共有するスタッフ一人ひとりの献身的な努力。患者の言葉に真摯に耳を傾け、患者が求める最良の医療を提供するきくち総合診療クリニックの人気の秘密がそこにある。



「たくさんの人によってひとつの命を支え合おう」という思い
 『いつでも、どんな症状でも診てもらえる』安心のクリニック

きくち総合診療クリニックのロゴマークは、地球を何本かのリボンが包んでいる斬新なデザインだ。

「地球は人の命を、リボンは支える人たちを表しています。このように、たくさんの人によってひとつの命を支え合おうというのが私の思いです」と医療への思いを熱く語る。

開業わずか1年半で多くの患者が詰めかける人気のクリニックを作り上げた菊池院長だが、今後は救急医療をより充実させたいと抱負を語る。

「日曜や祝日も診療をしているため、地元や近隣の方にはもちろん、県外の患者さんにもご利用いただいています。また、月曜から水曜と土曜の夜9時までの診療は、中高年のサラリーマン

Profile

菊池 大和 (きくち・やまと)

静岡県出身。福島県立医科大学医学部卒業後、数々の総合病院に外科医、救急専門医として勤務。平成29年4月にきくち総合診療クリニックを開業。

所属・活動

日本救急学会救急科専門医。日本外科学会外科専門医。日本慢性期医療協会総合診療認定医。日本医師会認定健康スポーツ医。認知症サポート医。身体障害者福祉法指定医（呼吸器）。かかりつけ医うつ病対応力向上研修終了、かかりつけ医認知症対応力向上研修終了。神奈川県医師会在宅医療研修会終了。厚生労働省初期臨床研修指導医。神奈川県難病指定医。総合アレルギー講習会終了。エピペン処方認定医。BLSプロバイダー。ACLSプロバイダー。PALSプロバイダー。JATECプロバイダー。

Information

きくち総合診療クリニック

所在地 〒252-1107
神奈川県綾瀬市深谷中7-18-2 ライズモール綾瀬1階
TEL 0467-76-1000

アクセス 神奈川中央交通バス亭「深谷原」より徒歩1分

設立 平成29年4月

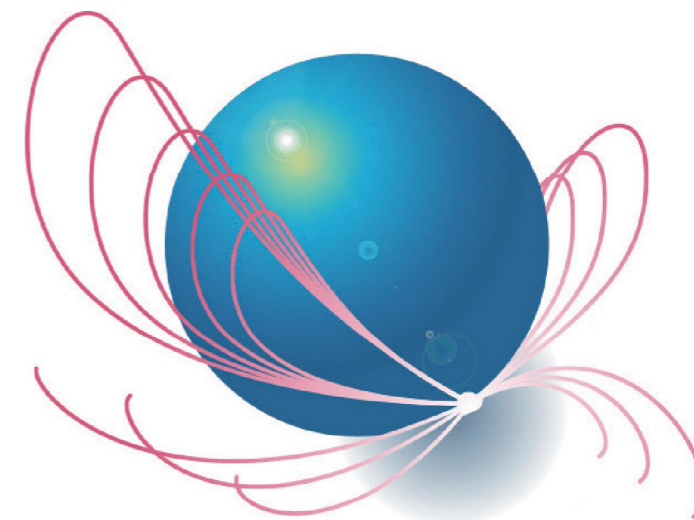
診療内容 内科・外科・循環器内科・呼吸器内科・
胃腸内科・アレルギー科・心療内科・
救急科

診療時間 月～水・土曜 9:00～13:00
15:00～18:00
19:00～21:00
金曜 9:00～13:00
日・祝日 9:00～13:00 15:00～18:00
休診日 木曜・金曜午後



診療基本理念 病気を診て、人を診て、一人でも多くの命をやさしく包み込む医療を提供する。

- 基本方針**
1. 地域完結型の医療を目指します。
 2. 受診された方、家族にとって、何が一番最善なのかを考えます。
 3. 病気の予防、早期発見治療、救急対応に力を入れます。
 4. 全職員が、医療人社会人として、責任ある行動をします。
 5. 地域の医療機関と密に連携協力します。



クリニックの想いがこもったロゴマーク

の方に喜んで頂いています。救急医療を充実させて患者さんには、『いつでも、どんな症状でも診てもらえる』という安心感を持ってもらえれば嬉しいですね。そして、どんな病気の患者さんも受け入れる『医療の窓口』である総合診療の認知度を、もっと広めていきたいです」

病の早期発見、早期治療を通して地域の人々の健やかな暮らしを願う菊池院長の姿は、アルベルト・シュバイツァー博士を彷彿とさせる。